

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる学校」
 単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。JR水戸駅から徒歩圏内の利便性と緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心豊かな学びを実現する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、生涯学習の視点で捉えた文化・スポーツに関わる総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、適切で論理的な課題の発見と解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 文化・スポーツに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技術を身に付け、社会の変化に適応しながら生きていくことの大切さに気付く。
- (2) 文化・スポーツと自分自身との関わりの中に疑問をもち、その解決に向けて分析する力や、論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 文化・スポーツについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な価値観と考えを受け入れ、自己と他者を認め合う姿勢・態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・キャリア・パスポート、ワークシート、成果物、レポートや発表の内容を対象に、ルーブリック等を用いて学期ごとに各評価の観点到達度をはかる。
- ・各授業における担当者会議で、学習活動の評価観点や、指導上の課題を共有する。

生徒の実態

- ・不登校経験者もその他の生徒も新しい生活に希望を持っている
- ・義務教育レベルの学び直しを必要とする場合がある
- ・個性的で、生徒集団は多様性に溢れている

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

個に応じた指導を叶えるシステム

- ・通級指導
- ・スクールカウンセラー
- ・キャンパスエイド
- ・社会人相談員

教員団と外部専門家によるチーム水戸南

目指す生徒の姿

- ・自分の課題を克服し、個性と強みが光る大人の顔になる
- ・継続した学びの楽しさ・大切さを知り、これからも学び続ける
- ・社会的自立・職業的自立のための力が身に付いている

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

昼間制1学年 : ①道徳 ②美術 ③演奏法 ④時事研究 ⑤文学研究
⑥数理・情報研究 ⑦卓球 ⑧バドミントン

昼間制2・3学年 : ①生活 ②美術 ③演奏法 ④時事研究 ⑤文学研究
⑥数理・情報研究 ⑦卓球 ⑧バドミントン

夜間制1学年 : ①道徳

夜間制2・3学年 : ①図書研究 ②パソコン・ワープロ ③バドミントン ④卓球

- (1) 知識及び技能
行動を振り返り、課題を改善・解決する知識や技能を身に付け、環境に適応しようとする力（適応力）
- (2) 思考力、判断力、表現力
自己の課題を見つけ、分析し、その結果をまとめて次の活動につなげることができる力（分析力）
- (3) 学びに向かう力、人間性等
多様な他者とコミュニケーションをとり、協働しながら互いに高めあえる力（協働力）

学習活動、指導方法等

- ・各テーマの計画に沿って、授業担当者（各テーマ毎に1～3名）が指導する。
- ・テーマ毎に、キャリア・パスポート、ワークシート、成果物、レポート等の提出や、成果の発表等を実施する。
- ・全体計画・年間計画は教務部と授業担当者が連携して作成する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・指導方法や評価観点、進捗状況等について情報共有するための担当者会議（毎週金曜日放課後）
- ・授業のユニバーサルデザイン化と個に応じた主体的な学びのための授業研究
- ・スクールカウンセラー、社会人相談員、キャンパスエイドと校内委員会等との連携
- ・通級指導の充実
- ・いじめを生まない、受容的・共感的な学年学級経営
- ・家庭・地域との情報共有及び連携